



朝岡聡あさ おか さとしがご案内します。

20世紀の大作曲家メシアンが

難解な存在から、きっと身近な存在に！

演奏とトークにより、解き明かされる

『メシアンの肖像』

ピアノ、ソプラノ、オルガンによるメシアン作品の本格的な演奏に加え、フリーアナウンサー朝岡聡の軽妙なトークと、メシアンに師事した作曲家・小鍛冶邦隆による解説をお届けいたします。

武蔵野のレクチャーコンサートは、一味違う！
メシアンを得意とする豪華演奏家が集結。



ジョン・ケージ、武満徹、坂本龍一、田中泯などと共に創作を続け、ベルリン芸術週間、パリの秋芸術祭など、国際的に活躍し、特に現代作品で定評あるピアニスト。

高橋アキ (ピアノ)



パリのスコラカントルムでシャピュイに、オルセー音楽院でイゾワールに師事したフランス・オルガン音楽の第一人者。トゥールーズ・バッハ国際コンクール入賞の実力者。新宿文化センター・オルガニスト。

早島万紀子 (オルガン)



パリ高等音楽院で、メトロポリタン・オペラなどで活躍した名教授ペギー・ブーヴレの薫陶を受けたソプラノの新鋭。今年8月のドイツ・ノイシュタットでの国際メシアン週間にも出演するメシアンのスペシャリストがこの公演のために来日。

ガエル・アルケス (ソプラノ)

オリヴィエ・メシアン(1908-92):パリ音楽院でデュプレにオルガンを、デュカスに作曲を学ぶ。1931年よりパリのサント・トリニテ教会のオルガニストになる。36年、ジョリヴェラと<若きフランス>というグループを結成し、音楽における人間性の回復をかけた、カトリック信仰を基にした神秘主義的作品を発表したが、第2次世界大戦によりグループは解散。40年、メシアンも招集され、ドイツの捕虜を体験。翌年釈放され、42年よりパリ音楽院教授。戦後は、非ヨーロッパ民族の音楽に注目、ミュージック・コンクレートも試み、リズムにおける音列技法を探求。さらに鳥の鳴き声を基礎にした作品を発表。自然界の全てに絶対者の造化の妙を見るというカトリック世界観に没入した。門下からブーレーズらが輩出し、新しい音響世界の探求によって第2次世界大戦後の前衛音楽に多大な影響を与えた。20世紀を代表するフランスの作曲家で、生誕100年にあたる今年、世界各地で様々なイベントが行われている。

演奏曲目(予定)

「栄光の教会の出現」「聖霊降臨祭のためのミサ」「聖三位一体の神秘への瞑想」より(オルガン)、
「8つの前奏曲集」「幼子イエスへの20のまなざし」「4つのリズム・エチュード」より(ピアノ)、「ミのための詩」より(ソプラノ)

出演 高橋アキ(ピアノ)、ガエル・アルケス(ソプラノ)、安田正昭(ピアノ)、早島万紀子(オルガン)、小鍛冶邦隆(解説)、朝岡聡(ご案内)

9月14日(日) 午後7時開演 武蔵野市民文化会館 小ホール

全席自由 2,000円

お申し込みは、(財)武蔵野文化事業団へ。TEL: 0422-54-2011